

EurekaXIII

六年制通信 No.12 令和7年6月20日(金)号

ことばで遊ぶ

ひとよひとよにひとみごろ…。「一夜一夜に人見ごろ」なんて、これを習ったのはいつでしたかな。 $\sqrt{2}=1.41421356$ の覚え方ですが、こういう語呂合わせを日本人は好みますね。 $\sqrt{3}=1.7320508$ は「ひとなみにおごれや(人並みに驕れや)」。 $\sqrt{5}=2.2360679$ なんかちょっと詩的ですね。「富士山麓オーム鳴く」ですからな。私、十数年前に六年制に来まして、それまで三重中学校の電話番号すら知らなかったのですが、石井先生に覚え方を教えてもらいました。その瞬間から一度も忘れていません。29-4001は「肉、よーい!」、ついでに三重高校の29-2959は「肉、肉、ごっくん」と覚えるといいですよ、と。なるほど、うまい、感動的ですらあります。これ、昔覚えた「瓜にツメあり、爪にツメなし」に匹敵するほど一瞬で覚えられましたな。

語呂合わせと言いますか、口調のよいことを日本人は好みますね。惑星の覚え方などもそうです。水金地火木土天海冥、今は冥王星はなくなったような気もしますが「すいきんちかもくどってんかいめい」は一度聞いたらすぐ覚えられますよね。これ、英語バージョンがありましてね。My very excellent mother just served us nine pizzas.と覚えるそうです。それぞれの頭文字が惑星の頭文字に一致しています。水星から順にMercury, Venus, Earth, Mars, Jupiter, Saturn, Uranus, Neptune, Plutoです。ほとんどギリシア神話ですね。元素記号の「水兵リーベ僕の船…」もうまいですね。後半は苦しそうですが…。リーベなんてドイツ語のLiebeだとすると英語のLoveですから、なかなかシャレしていると思いませんか。

こういった語呂合わせに限らず、日本人はことば遊びが好きなのですね。ひらがなの濁点をうまく使った有名な言葉遊びがあります。皆さんも聞いたことがあると思います。世の中は澄むと濁るの違いにて「はけ(刷毛)に毛がありはげ(禿)に毛がなし」。これ、後半はちょっと支障のある方がいるかもしれないので、気に障ったら申し訳ないのですがうまいのはうまいですね。他に「フグに毒ありふく(福)にとく(徳)あり」とか「ためになる人ダメになる人」など面白いのがあります。

濁点のことば遊びで今までに最も感動したのは、長野県人は皆さん知っていらっしゃると言われている、武田信玄が上杉謙信に送ったとされる歌と謙信の返歌です。これ、絶対のちの誰かの創作ですけどね。これが驚くほど上手なのです。

まず、信玄から謙信へ：すぎかれて、たけたぐひなきあしたかな(杉枯れて、竹(武田)たぐいなき明日かな)。「たぐいなき」は類無き、他に比べる物のないほどの、という意味。上杉は枯れて武田はこれまでに類のないほど栄える明日かな、というわけで

す。これはカチンと来ますよね。それで謙信の返歌です。旧仮名の濁点だけを移動させたものです。返歌：すぎかれで、たけだくびなきあしたかな（杉枯れで、武田首なき明日かな）。杉は枯れないで、武田の首なき明日かな、というわけ。謙信はしっかりやり返しましたね。これを考えた人は大したものですね。

あと、無理問答というのも私は好きですね。諸君は知っているでしょうか。有名なものだと、「一枚でも煎（千）餅とはこれ如何に 一個でも鰻（万）頭というが如し」でしょうか。これ以上ナンセンスなものはないよね。何の解決にもなっていないのですから。「嫌いな人と行ってもアイス（愛す）ランドとはこれ如何に 好きな人と行ってもスカン（好かん）ジナビア半島というが如し」、「赤い花でも葵（青い）とはこれ如何に 見るものにして菊（聞く）というが如し」。どうですか。面白いかな。

ことば遊びの中で最も難しいのは回文でしょう。「たけやぶやけた」のように、上（左）から読んでも下（右）から読んでも同じになることばです。古いところでは「宇津井健氏は神経痛」なんかが有名ですかね。なかなか自分では作れませんから、島村桂一の『回文遊び大事典』から一つ紹介しましょう。「竹刀が震える腑甲斐なし（しないがふるふるふがいなし）」なんていかがでしょうか。英語のもありますよ。これまた昔からあるのは *Madam, I'm Adam.* ですよ。 *No lemon, no melon.* なんてかわいいですね。島村さんの本で感動したのは日本語をローマ字変換したときに回文となる文章です。

なんの本？ ア！ まさか？！ さかさまの本なん？

Nan no hon? A! Masaka?! Sakasama no honnan?

上手でしょ。皆さんも語呂合わせでも無理問答でも回文でも、自分で作ってごらん。

今週のおすすめ

・森沢明夫 『水曜日の手紙』（角川文庫）

この著者の本は以前『おいしくて泣くとき』を紹介しましたよね。あれもいいお話でした。映画化されると聞きました。楽しみです。

今回のお話は水曜日郵便局。水曜日の出来事を綴って水曜日郵便局に送ると、全国から来た手紙を局が適当にシャッフルして発送します。つまり手紙を書いて送ると誰かの水曜日の出来事を綴った手紙が届くという仕組み。面白いですね。同じ人物と文通するわけではありません。パン屋さんを夢見ていた主婦。絵本作家になりたかった文房具メーカーの課長。二人が空想を交えて綴った水曜日の手紙がそれぞれに届く。二人の手紙を仕分けした郵便局員の物語も間に入ります。

- ・自分の心に嘘をつかない。
- ・よかれと思うことはどんどんやる。
- ・他人を喜ばせて自分も喜ぶ。

物語が進むにつれて、この三つの法則が二人を前に向かって歩ませます。森沢さんらしい小説です、と思って「あとがき」を読んで驚きました。この郵便局、実在するのですね。もちろん実際の小説とは違うでしょうが、しかしまあ、驚きました。

BGMは ゆず の 向日葵が咲く時 でした…。